

令和元年度 地域医療連携推進法人尾三会 評議会 会議録

開催日時：令和元年6月6日（木）17時より17時35分

開催場所：藤田医科大学病院 外来棟6階 6-1セミナールーム

出席者：牧靖典評議員、大林市郎評議員、草川昭三評議員、高橋元治評議員、今原孝評議員、
星長代表理事、湯澤由紀夫理事、安藤事務局長

1. 開会の辞

- 星長代表理事が開会の辞を述べられた。

2. 報告事項

- 平成30年度事業報告について、安藤事務局長が説明した。参加施設について、本年度4月より医療法人寿光会（寿光中央病院）及び医療法人大医会（日進おりど病院）が追加、前年度末でのたきざわ胃腸科外科の退会が報告された。カーリース事業について、契約締結を報告した。

〔評議員からの評価、意見〕

- ◇ 薬剤一括価格交渉について、成果があったことを評価された。
- ◇ 講師派遣事業について、地域のレベルアップにつながると非常に高い評価を得た。
- ◇ 一つ一つの施設に要望を聞きに行くことも良いと意見された。
- 決算書について、安藤事務局長が報告した。また、監査法人及び監事の監査が終了している旨を併せて報告した。
- 令和元年度事業計画について、安藤事務局長が説明した。
- 今後の事業推進について、安藤事務局長が説明した。講師派遣、臨床実習、人材交流についての実績について説明した。

〔評議員からの評価、意見〕

- ◇ 看護師の再教育について、大学病院という育成の場を用いて積極的に進めるようご意見をいただいた。
- ◇ 大学には中核センターがあるため、看護師のみならず、介護や地域包括ケアの関係について、国も注目していると意見をいただいた。

3. その他

- カルテの共有化、給食のセントラルキッチン化について、星長代表理事が説明した。

〔評議員からの評価、意見〕

- ◇ 情報共有の観点からビッグデータの可能性追求について質問された。
湯澤理事が、標準化が出来ていないため現在は困難である旨を説明した。採血データについてはハードルが低い、画像データ（レントゲン）は非常に難しい。カルテの記載についても均一化、標準化が必要で、日本語環境は英語環境より均一化が困難。Aiが必須となる。
- ◇ まずは大学病院の基準を均一化し、その後尾三会施設へと均一化を広げていくことへ、期待が寄せられた。

4. 閉会の辞

- 星長代表理事が開会の辞を述べられ、閉会した。